的には豊かな国ですので、いろいろな私どものほうからあまり経済的な心配をせずに交流できる国かなと。ただ、タンザニアの場合は、やっぱり配慮しなきゃいけないなというふうなことで、財源とか、やり方については、今後いろいろな、議会を含めて、助言やら、提案をいただいて、交流を続け、なおかつ、経済的なつながりも、あとは、子供たちの交流などもいろいろ検討したいと思います。

最後でございますが、オーストリアとの関係で、パラリンピックの事業で、那須塩原市、那須塩原市は、この間も市長と、渡辺市長と白金台の八芳園の80周年の式典に私も彼も行って、一緒にお祝いの挨拶をさせてもらったんですけども、そういった国内の自治体との関係も多分あると思いますので、そういったことのつながりやら、あるいは、リヒテンシュタインの場合ですと、ラインベルガーという非常に世界的に著名な作曲家がいらっしゃるんですけども、リヒテンシュタインの方なんですね。そのラインベルガーの曲を日本人はかなり歌ってるということですから、そういったことも含めて、文化的な交流などもできるのかなと。多方面、多角的に交流を検討してまいりたいと思いますので、ぜひ今後ともご指導くださいますようお願いいたします。

○平　進介委員長　10番、鈴木富美子委員。

○１０番　鈴木富美子委員　いろいろせっかくの機会をやっぱり捉えて、今後の長井市にとってもプラスになるような交流をしていけたらいいと思います。

タンザニアに行った中学生お二人ですけども、もう大きくなられまして、ぜひ外国と日本、長井市と結びたいという学校に行くと、北中のご卒業なされた子供さんがこの間お会いして言ってましたので、それもタンザニアに行ったときのイメージがあるのかなと思っております。やっぱり子供たちも機会があればぜひ海外に連れていかれるような施策も必要でないかなとすごく思ったところです。

これから、やっぱり国は遠いんですけど、今、市長の話を聞いたら、いろんなところで、国内でもいろんなことを考えてらっしゃるということということで、財源を確保しながら、ぜひ国際交流のほうにも力を入れていただければと思います。

以上で質問を終わります。

内谷邦彦委員の総括質疑

○平　進介委員長　次に、順位３番、議席番号７番、内谷邦彦委員。

○７番　内谷邦彦委員　政新長井の内谷邦彦です。明確な回答をよろしくお願いいたします。

最初に、６款農林水産業費、１項農業費、商工振興課分、103、６次産業化推進事業22万7,000円について伺います。

令和４年度の予算が33万7,000円、令和３年度の決算では20万1,380円となっております。令和３年度には６次産業化商品開発費15万円、実績数３件となっております。また、令和２年度には６次産業化ブランディング企画運営業務委託料として154万円、市外販路の獲得に向けた戦略的な試験販売等の業務を実施する予定であったが、コロナ禍の影響で、事業実施が困難となった。そのため、アフターコロナを見据えた市外販路への提案コンセプトの策定を売り先と協議して進めながら、事業者の商品開発や商談等の個別支援を実施したとしております。

今回、ようやくコロナウイルス感染症に関しての規制がなくなりつつある中で、令和２年度に行ったアフターコロナを見据えた市外販路への提案コンセプトの策定を売り先と協議して進めながら、事業者の商品開発や商談等への個別

支援の成果が試される時期が来たと考えますが、どのような計画になっているのか、商工振興課長に伺います。

○平　進介委員長　菊地千賀商工振興課長。

○菊地千賀商工振興課長　現在、６次化商品の課題としましては、生産量が少量であり、大きな取引になると、販売先の要望に応えられなくて、コストも高くなってしまうということがあります。また、人手が少ない中で商品製造を行っているために、営業に時間をかけられない、あと、販路拡大の際に必要となるデザインパッケージ等の改良に手をかけることができないという実情があります。そのため、コロナ禍以前は、販売店等と連携し、試験販売を目的とした催事を開催するなどして、販売店へのＰＲ、顧客のニーズの把握などを実施してきました。新型コロナウイルス感染症の規制が厳しい中においては、県外での催事等の実施が困難ではありましたが、近年は、地元のお客様に商品を知ってもらい、評価をいただくことで、販売量の増につなげていくということに主眼を置き、道の駅や菜なポートを会場とした地元イベントでの販売をし、口コミによる販売力の強化を目指してきました。地元イベントで生産者がお客様とコミュニケーションを直接取ることで、お客様がリピーターとして購入してくれることや、商品のアドバイスをいただくことにつながっているようです。

また、新型コロナウイルス感染症の規制が緩やかになる中、一定規模の生産量が確保でき、地元での評価の高い商品については、仙台や首都圏を中心とした県外での販路拡大の取組も進めております。令和元年から２年に委嘱した６次産業化コーディネーターの紹介による県内高質スーパーや仙台、あとは、首都圏等の販売店との商談、東京事務所による催事等のＰＲ活動、本市が包括的連携協定を結ぶよい仕事おこしネットワークの支援を受けた商談会などで、一定の成果を上げている事業所も出てきております。去る２月20日も、よい仕事おこしネットワーク主催のオンライン商談会が開催され、本市の某事業者が商談会に臨みました。百貨店のバイヤーから指摘されたことは、やはりロットが足りないということでしたが、商品のいいところはとても褒めていただいて、また、足りない部分はこんなところだというアドバイスをいただき、どの事業者も勉強になったと喜んでおりました。

今後の計画の概要についてですが、生産量や商談対応力は事業者によって様々ではあります。まずは、道の駅や直売所、地元イベントに参加し、商品の知名度を上げていくこと、また、口コミ評価を広げることで、安定的な売上げを確保する。その上で生産量に沿った販路拡大をして、これまでのつながりのある販売店との連携を通じて、商談等の支援に取り組んでまいります。

市事業で、６次化の推進に取り組み、７年が経過しました。個別の商品開発が進み、成功事例や課題等についても見えてきたことがありますので、今後、事業者や関係者を集めて意見交換会を開催し、必要となる行政支援等の検討を進めていきたいと思っております。また、首都圏等での営業活動、本市商品のＰＲ活動については、東京事務所との連携を密にして、事業者の実情に沿った支援を進めてまいります。

○平　進介委員長　７番、内谷邦彦委員。

○７番　内谷邦彦委員　いろいろやられてて、実績もあるという形なのですが、令和３年度に行った６次産業化推進事業で商品開発３件って書いてあったんですけども、その辺、現在がどのようになっているのか、ちょっと詳しく教えてください。

○平　進介委員長　菊地千賀商工振興課長。

○菊地千賀商工振興課長　令和３年度につきましては、３件のうち、２件が新商品開発に取り組みました。

その１件が長井産酒米「出羽燦々」を原料と

した地酒惣邑を使用したゼリーとなります。本商品は、食品製造業者や酒蔵に在籍する地元の女性３人が夏向け商品についてのアイデア出しを行い、そこで生まれた商品となります。地域イベントでの売行きもよく、あと、テレビ、新聞等のマスコミに多く取り上げられたこともあり、好評だったとお聞きしております。

２つ目は、市内産リンゴ、ラ・フランスを原料としたストレートジュースを使用したゼリーセットになります。こちらの商品は、取引先に提案するギフト商品として開発されたものでございます。取引先からセットで販売できる商品の相談を受けることが多く、要望に応える形で開発されたものとなります。取引先からの評判が大変よく、少量生産のために数量限定とはなりますが、順調な販売につながっているようです。

３件目の商品は、黒ニンニクになります。こちらは、商品開発ではなく、プロのデザイナーに依頼して、パッケージのデザイン変更と販売促進物となるチラシの作成に取り組みました。生産量が少ないために、地域イベントでの販売がメインとなってしまいますが、山形県等で開催する商談会に積極的に参加するなどして、バイヤー等のアドバイスを参考にしながら、少しずつ販売量を増やしているところです。

３商品の開発の経緯は、地元のアイデア出しであったり、取引先からの要望であったりと、様々ではありますが、販売先の担当者の話をよく聞きながら、自らの生産量に合った販売先の確保に努めているようです。

○平　進介委員長　７番、内谷邦彦委員。

○７番　内谷邦彦委員　次に、令和４年度に行った商品開発、現在どうなっているのか、併せてお聞かせください。

○平　進介委員長　菊地千賀商工振興課長。

○菊地千賀商工振興課長　令和４年度につきましては、今まで開発してきた商品のＰＲ効果に資する商品改良、あとは、販売促進物の作成を支援する内容にしております。今年度は現在のところ、２件の事業者が申請し、商品改良、販売促進物の作成に取り組んでおります。

取組の１つとして、本市産のリンゴ、ラ・フランスジュースを原料としたストレートジュースの販売促進用チラシの作成になります。こちら、このジュースは、ＪＡＬのビジネスクラス国際線での採用、あとは、山形県が主催する令和４年度ファインコンテスト飲料部門の最優秀賞の受賞などの成果を上げており、このような実績を記載したチラシを作成し、営業活動を強化しております。

２つ目の取組は、本市産のブドウやキクイモを原材料としたジェラートの市内飲食店用の商品紹介卓上カードやポスターの作成の取組になります。ここ最近の売上げが減少しているということもあって、自店舗や道の駅だけでの販売だけではなくて、地元飲食店を対象にした業務向け販売を進めようとしております。実際の営業活動はこれからになりますが、地元飲食店にターゲットを定めて、販路拡大の取組を進めております。

２商品とも販売開始して５年目になりますが、安定的な売上げの確保を目指して、営業先や効果的なアプローチの方法を試行錯誤しながら、販売拡大を進めております。

○平　進介委員長　７番、内谷邦彦委員。

○７番　内谷邦彦委員　その６次産業化事業の商品開発についてちょっと調べてみたんですけども、ある資料に書いてあったのですが、商品が成功商品のコピーやそのときの流行でつくった場合や、売れる最終商品像からの原材料選択ではなく、地域資源だからとして選択してしまうことがあるようで、具体的な商品像がないままに開発すると失敗する事例が多くあるようです。商品開発を成功させるためには、特に営業が大事で、営業力を持った販売店と最初から連携し、

販売できる商品を生産者と共に創り上げ、決まった数の販売を契約で結ぶために、生産者のリスクが少なく、販売店が商品企画から実際の顧客にモニタリングもするために、受け入れられれば、販売につながっていく流れができることが最善の方法となると書いてありました。本市の場合、このようなやり方での商品開発というのはできないんでしょうか、その辺はいかがですか。

○平　進介委員長　菊地千賀商工振興課長。

○菊地千賀商工振興課長　現状の商品開発について、生産者が取り組む場合、自身が生産する農産物を原材料とした加工品だったり、食品製造業者も地域資源から素材を選択して商品開発を行ったりという事例が多く見られますが、販売先の声を聞きながら、商品改良や新商品開発に取り組んでおります。

委員からご提案いただきました営業力を持った販売店と生産者が開発の当初から連携し、売れる商品を創り、数量を定めて、契約して販売する手法については、やはり生産者と販売店が継続的な取引等を通じて信頼関係が成立している上で可能となる手法であり、６次産業化商品においては、まずは、地元の評価を得て販売店への交渉力を高めることが重要で、最初から契約して商品開発は難しいところがあります。販売先から要望されて開発された商品もありますが、顧客の反応が販売先の想定とやっぱり違うところもあり、スポットの開発で終わってしまうこともあるようです。

具体的な製造技術につきましては、県の専門家派遣制度や支援機関等を活用し、食品製造販売に必要な許可申請も含めて、指導いただいております。令和３年には、ＨＡＣＣＰによる食品衛生管理についての講習会を開催し、生産工程の管理についても研修会で取り組みました。また、近年は生産者が自ら加工するのではなくて、原材料を提供して、専門の業者に委託加工を依頼し、販売のみ生産者が行う商品も増えております。完成した商品については、小ロットの生産からスタートし、販売先や顧客の反応を伺いながら、販売量を増やしていくことがほとんどです。販売店からは、多くの商品が存在する中で、地域の特色を明確にした商品を望まれることが多くなっております。そのため、地域情報の集まるコミュニティセンター等を中心に、地域と密接な連携を進めながらの商品開発も今後は必要かと思われます。

商品開発については、開発するだけで終わるのではなくて、販売先の確保が重要でありますので、本市とつながりのある販売先や東京事務所など、関連機関との連携を密にしながら、販路を想定した商品開発を引き続き進めてまいります。

○平　進介委員長　７番、内谷邦彦委員。

○７番　内谷邦彦委員　産業参事にお伺いしたいんですけども、今後の６次産業化推進事業での商品開発はどのように進める予定なのかを教えてください。

○平　進介委員長　赤間茂樹産業参事。

○赤間茂樹産業参事　これまでの商品開発につきましては、ただいま商工振興課長からあったとおりでございますが、これまでも様々な工夫をいたしまして、生産者自身が研さんして、商品化に取り組んできております。また、必ずしも生産者の頑張りではなく、コーディネーターの意見を求めるなどして、商品の販路について進めてきました。その中で、確かによい商品もできてきているなというふうには思います。

しかしながら、問題点といたしましては、やはり知名度、広報力、それから、生産能力という部分で課題があるというふうに思っております。知名度、広報力を補うというふうなことにつきましては、これまで取り組んできておりませんが、委員からもご提案あったんですが、ちょっと私としての考えとしては、第三の機関と

の提携も一つあるのかなというふうに思います。

例えばなのですが、やまがたアルカディア観光局で、地域内のお土産品開発を行っています。観光局と、もし６次化の商品化について連携できるのであれば、観光局は営業も行いますので、広報力で商品を販売するということも可能だと思いますし、現に三淵の蜂蜜などは、観光局で開発した商品ということで現在売っております。そのように、来年度も別の商品化にも取り組むということにしておりますので、そういった方法も一つあるのかなと思います。仮に観光局で扱った場合、ツアー商品の中で６次化商品を使っていくということもあり得ますので、少なからずとも知名度の向上に貢献できるかなというふうに思います。

ちょっとまたここで話は替わりますが、もっと大きな視点で考えますと、今後の農業を考えると、いずれ地域計画も策定しなければなりませんし、例えばこれから圃場整備を行うというふうなことなどになれば、水田だけではなく、必ず畑地ということが出てきます。その畑地の団地化が進むのであれば、例えばいわゆる奨励作物の生産物販売のほかに、地域として６次化というふうな道筋もあるのかなというふうに考えられます。例えばよい仕事おこしで連携している大田区のＨＡＮＥＤＡ　ＳＫＹ　ＢＲＥＷＩＮＧでは、長井市の秘伝豆を使ったクラフトビールを試験的に醸造していただきました。もう一つ、会津の曙酒造さんでは、長井市産の枝豆とヨーグルトを使ったｓｎｏｗｄｒｏｐというリキュールですね、これを造っていただいたなどしておりまして、大変好評な商品が出来上がっています。

行政といたしましては、地元の生産物とこうした商品開発をする事業者とのマッチング、それから、６次化に取り組む農家、加工会社への支援などを行うのが、やはり我々の役目かなというふうに考えております。商品の開発を促す取組に支援を行いまして、出来上がった６次化商品で好評だったもの、その原料ですね、その原料の生産に向けて、例えば畑作物などの普及に取り組むということも一つの方法ではないかというふうに思います。

委員のご質問の今後どのような形で進めるのかというふうな問いに、現在明確な回答はできませんけども、今述べましたように、可能性について考えられることがありますので、これまでの取組と併せて、将来像について考えていきたいと思っております。

○平　進介委員長　７番、内谷邦彦委員。

○７番　内谷邦彦委員　いわゆる今の農政の状況であったり、そういったものがうまくマッチングできれば、当然市内の業者の方も販路的には拡大になるわけですから、非常に有効な手だてだと思います。やっぱり商品開発というのが、要するに本来の目的である地元の業者の売上げを伸ばす、あとは、本市由来の特産品を創ることによる地場産業の発達という形になると思います。やっぱり売りたい商品というよりも、作り手が買いたいと思えるような商品、要するにお金を払いたいと思える商品をコンセプトにして考えることだと思います。そういった中では、やっぱり今言われたようなことも十分検討していかなくてはならないと思います。

あと、ちょっと道の駅と市民直売所での販売が基本的にスタートになるんだろうと思いますけども、先日、道の駅に行った際に、道の駅の売上げベスト10という貼り紙があったんですよ。ところが、残念なことに、入り口から入ってすぐに見えるところではなかったんです。どこに貼ってあるのかなと、中央の柱の反対側に貼られてあったんですよ。要するに中央入って、案内所があって、売場を見ようとすると、そこの柱のその裏に貼ってあった。そこしか貼ってないのか、私、ちょっとそのときは分からなかったので、そこに貼ってあったんですよ。売上げ

の１位から３位までは長井市の事業者の製品で、５位、６位も事業者の商品だったんです。その長井市の事業者の売上げを伸ばすことを考えたら、やっぱり貼り紙は入り口から入って目立ったところに貼ってほしいし、その近くにやはりその商品を並べて売ってほしいと思ったんですよ。やっぱり当然、長井市の道の駅で長井市の事業者の商品がまとまって売れるスタンスが、今のところ、今ちょっとないんじゃないかと。いろんなところに置いてあって、どれが長井産か非常に分かりにくい。お麩なんていうのは、非常に端っこのほうに置いてあるし。だから、せっかく長井市で道の駅を造られたんであれば、やはり長井市の特産品を一番目立つところ、スーパーなんかでいうと、島をつくって、そこで客を止めて、そこで要するに物を売りたいというふうな、売れるものを、売りたいものをそこに置くというふうな、そういういろんな手法があると思うので、ぜひその辺、長井市の商品を売れるような、売りたいと思って設定した道の駅の売場であってほしいんですけど、その辺に関してはいかがなのでしょうか。

○平　進介委員長　赤間茂樹産業参事。

○赤間茂樹産業参事　内谷委員おっしゃるとおりのことも確かにあるなというふうに今感じました。道の駅につきましては、運営につきましては、地場産業振興センターのほうに委託しているわけですけども、今ご提案ありましたような、確かにその時々で、シーズン物、季節物でもいいと思いますけども、そういう機会もあってもいいのかなというふうに思います。

なお、道の駅のほうとちょっと今後、相談させていただきたいと思います。

なお、紙については、なるべく目立つように貼っていただけるように助言していきたいと思います。ありがとうございます。

○平　進介委員長　７番、内谷邦彦委員。

○７番　内谷邦彦委員　ぜひ、その６次産業化で、売る量が少なくても、作られた方々は完売したいんでしょうから、やっぱり売れる場所を基本的には長井市が設定できるんであれば、設定していただきたいし、常に完売して、要するにみんなが欲しがるという、行ったけど、買うものが、買いたかったけど、なかったというのが一番、売れるものだろうと思いますので、そういった形をぜひ、見かけだけでもつくれば、また物としては非常にいいものになってくると思いますので、そういった形でお願いしたいと思います。

次に、７款商工費、１項商工費、３目観光費、003観光振興事業、予算額4,072万9,000円についてお伺いいたします。

長井市観光協会事業について、今まで制約が多い中で開催されてきたイベントがようやく制約が少なくなる状態での開催となりますけども、コロナ前と同様になるのか、それとも、新たな開催方法を検討しているのか、観光交流担当課長に伺います。

○平　進介委員長　竹田祐子観光交流担当課長。

○竹田祐子観光文化交流課観光交流担当課長

観光協会へ委託して実施いただく祭りにつきましては、具体的な運営につきましては、祭りごとに実行委員会の中で決めていただくものになります。現在のところ、新型コロナウイルス感染症の国の方針に沿いながら実施していくことになるため、入場制限をしたり、エリア分けを行ったりすることなく、祭りの規模的なところや開催方法は従前のスタイルに戻す方針とお聞きしております。新たな開催方法というものは特に検討されていないとのことでした。

○平　進介委員長　７番、内谷邦彦委員。

○７番　内谷邦彦委員　その観光協会で行う事業について、既存の白つつじまつりであったり、黒獅子まつりなどが主になると思いますけども、新たなイベントなどというのは、今回企画されているんでしょうか。

○平　進介委員長　竹田祐子観光交流担当課長。

○竹田祐子観光文化交流課観光交流担当課長　業務委託の予算上は、新規の祭りというものは予定されておりません。ただ、祭りの中で行われる週末ですとか、そういったときの集客イベントなどについては、今後の実行委員会、それぞれの中で協議されていくものになりますので、現在のところは詳細は未定でございます。

○平　進介委員長　７番、内谷邦彦委員。

○７番　内谷邦彦委員　その中で、観光ガイド事業について、本市の案内役として重要なポジションと思われるガイドさんなのですが、現在の人数と年齢構成について、どのようになっているのかをお伺いします。

○平　進介委員長　竹田祐子観光交流担当課長。

○竹田祐子観光文化交流課観光交流担当課長

３月時点での観光ボランティアガイド、ながい黒獅子の里案内人さんの会員数は41名となっておりまして、実際にガイドとして案内対応をいただいている方は29名となっております。ガイドいただいている方の年齢構成は、40代、50代が３名ずつ、60代11名、70代10名、80代が２名というふうになっております。

○平　進介委員長　７番、内谷邦彦委員。

○７番　内谷邦彦委員　その事業規模に対して、報償費が非常に少ないというふうに見えたんですが、その辺はどのように考えられるのかを教えてください。

○平　進介委員長　竹田祐子観光交流担当課長。

○竹田祐子観光文化交流課観光交流担当課長　報償費につきましては、令和５年度のガイド謝礼として、年額20万円を計上しているところでございます。黒獅子の里案内人さんは、無償のボランティアガイドとして活動されており、この謝礼につきましては、年間を通じてのガイド事業への取組、例えば花祭り会場で待機いただいての案内や、近年取り組んでいただいている水陸両用バスや遊覧船などの新事業に備える勉強会など、実施していただいており、観光事業への協力全般に対しての謝礼となっております。なお、観光文化交流課が事務局となり会の運営を事務的な面で支援しております。このほか、やまがたアルカディア観光局からの水陸両用バスや遊覧船案内、また、バス会社などからの依頼を受けてのツアーガイドのようなものに対する謝金は別途支払われております。市の事業協力や個人のお客様への案内ではない、営利活動に当たる民間旅行会社等からのガイド依頼については、規定を定めて、実費相当を頂きながら、活動しておられます。

○平　進介委員長　７番、内谷邦彦委員。

○７番　内谷邦彦委員　ボランティアという形になるものですから、どうしてもあくまでも人の善意を当てにしているような状況になると思います。市でその20万円というお金を払っているわけですけども、やっぱりそれ以外にできることがあるんだろうなと。要するに働きやすい環境づくりであったり、あとは、そろいのユニフォームであったり、そういった報償という部分ではなくて、あくまでも彼らが働きやすいような環境づくりのほうをぜひ一度考えて検討していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

あと、その次に、観光ＰＲ事業についてなんですけども、負担金補助や交付金の内容を見てみると、新たな事業がモンベル関係のみのように感じますけども、ほかに新たな事業等は企画されていないのかを伺います。

○平　進介委員長　竹田祐子観光交流担当課長。

○竹田祐子観光文化交流課観光交流担当課長　観光ＰＲ事業の中で予算計上しているもので、お問合せのモンベル関連以外の新しい取組としましては、日本自動車連盟、いわゆるＪＡＦさんとの連携協定をこれから締結しますけれども、それを生かしたネットワークによる観光情報発信事業、また、沖縄県金武町との相互訪問して

の物産交流ＰＲ活動を令和５年度に予定してございます。また、観光ＰＲにつきましては、市単独で行う事業を、この事業細目で計上しておりますけれども、やまがたアルカディア観光局やけん玉のふる里プロジェクトへの事業補助金であったり、また、広域観光事業の費目で計上しているやまがたインバウンド協議会ややまがた冬のあった回廊キャンペーン、山形おきたま観光協議会などへの負担金として支出しているものなどは、様々な団体、周辺自治体との連携してのＰＲ活動となります。具体的な実施内容は、それぞれの総会等で決定することになりますが、この中で、新たなイベントやインバウンドも含めた誘客促進事業などが検討され、機会を広げていくものでございます。

○平　進介委員長　７番、内谷邦彦委員。

○７番　内谷邦彦委員　その観光文化交流課所管で行われる観光振興であれば、文化財に関しての知識も持ってらっしゃると思ってますので、その方向のイベントがないように見えました。文教の杜単独ではなくて、観光の目的の中に文化財を織り込むことなどはできないのか、観光文化交流課長に伺います。

○平　進介委員長　渋谷和志観光文化交流課長。

○渋谷和志観光文化交流課長　まずもって、本市が所有する文化財については、これまで教育委員会の文化生涯学習課が所管しておりまして、市の宝、財産として保存、保全してまいりましたけれども、本市の文化財は市民の皆様はもとより、やはり市外の方にも見ていただくことに意義があるということで、観光資源として観光地域づくりにも活用できるということで、令和３年の５月から観光文化交流課の所管とした経緯がございます。

観光文化交流課の所管となってからは、やまがたアルカディア観光局や文教の杜、旧長井小学校第一校舎などの関係機関と連携しまして、文化財を観光資源として活用した事業を様々展開してまいりました。一言に本市の文化財と申し上げても、文教の杜が保管する絵画や彫刻、古文書などの文化財のほかにも、伊佐沢の久保ザクラですとか、草岡の大明神ザクラなどの天然記念物もございますし、あと、旧丸大扇屋、旧西置賜郡役所、もちろん旧長井小学校第一校舎の建造物もございます。そのほかの伊佐沢の念仏踊ですとか、各地区の獅子踊りなんかも無形文化財ということになってます。そのほかの各地に様々な史跡と言われてるものがございまして、長井市で今現在把握しているものについては、約100件ほどになります。

この３目の観光費の観光振興事業につきましては、先ほどからも話題に出ていますとおり、長井市の観光協会への委託料ですとか、ながい黒獅子の里ボランティアガイドの事業費、広域観光事業の各種負担金、観光ＰＲ事業の経費のほか、やまがたアルカディア観光局運営補助金ですとか、けん玉のふる里プロジェクト事業補助金などとして、長井市観光協会ややまがたアルカディア観光局、けん玉のふる里プロジェクト実行委員会が主催するイベントに対する委託料や補助金として計上しております。どうしても観光費の中では、文化財を活用した事業ということについては、確かに見えづらいかと思いますけれども、令和５年度もやまがたアルカディア観光局の旅行商品やながい黒獅子の里ボランティアガイドのまち歩きとして、文化財、文化施設なども含みますけれども、観光資源として活用した事業を継続、ブラッシュアップして実施していただくこととしております。

なお、委員からありました文教の杜単独ではなく、市が主催する事業としては、10款４項社会教育費の中の芸術文化費等におきまして、重要文化的景観のワークショップですとか、講演会、あと、市史編さんの歴史講座、古代の丘資料館における企画展など、本市の文化財の魅力や価値をやはり周知するイベントの予算を計上

しております。

委員からご提案いただきましたとおり、今後とも文化財を観光資源として活用した観光振興事業を関係機関と連携、協力して実施してまいりたいと存じます。

○平　進介委員長　７番、内谷邦彦委員。

○７番　内谷邦彦委員　観光という部分で、私、ちょっと見てましたので、文化財というふうな見方ができなかったのかなというふうに思います。

あと、その本市のイベントで、白つつじまつり、黒獅子まつり、開催されてる時期に、市民文化会館や旧長井小学校第一校舎を使用して、白つつじや黒獅子に関する文化財をまとめて展示して、観光客がまちなかを回遊する手だてというふうなものを考えてみてはいかがかなと思いますが、産業参事はいかがでしょう。

○平　進介委員長　赤間茂樹産業参事。

○赤間茂樹産業参事　集客のあるイベントや祭りの際に、併せて市内を巡っていただくということは、非常に大切なことだというふうに思っております。以前行ったちょっと事例としては、あやめまつりの期間中に、旧長井小学校第一校舎のギャラリー停車場さんのほうですね、あやめまつりのポスター展を行ったということがありました。考え方といたしましては、市民の皆さんに祭りを利用して誘客プログラムを行っていただくというようなことが大切になっていくなというふうに考えております。観光地域づくりというふうに言ってますけども、市民がやっぱり主役でありまして、市全体でお客様を受け入れるということに市民の方々が参加するという考え方でございますので、むしろそういったちょっと発想をこれからももっといっぱい出していただいて、やまがたアルカディア観光局あたりに企画を持ち込んでいただくなんていうふうなことになれば、非常にうれしい行動というところと考えております。もちろんやまがたアルカディア観光局でも祭り期間の商品として、市内を巡るツアーや体験ツアー、宿泊を伴う企画を行っていきますので、受皿となる方々に市内施設を利用した企画を行っていただければ、委員おっしゃるとおりのことは実現できるのかなというふうに思います。

また、祭りに関連するものでなくても、市内の文化財や文化施設を巡る旅行商品の催行、ながい黒獅子の里案内人によるつつじ公園やあやめ公園から観光客の案内も、まちなかに誘導する案内ですね。それも継続してまいりますので、重要文化的景観エリア内の関連する文化財等の案内を今後はブラッシュアップしてまいりたいなというふうに考えております。

○平　進介委員長　７番、内谷邦彦委員。

○７番　内谷邦彦委員　最近の傾向としてなのですけども、仏像や刀剣、古美術の展示を行うことにより、観光客が増えているというふうな傾向が感じられますけども、本市でも市民が個人所有している古美術などを提供してもらって展示することができないのか、その辺、検討してみては考えますが、産業参事はいかがでしょうか。

○平　進介委員長　赤間茂樹産業参事。

○赤間茂樹産業参事　昨年、長井の刀工展、刀鍛冶の展示会ということで、古代の丘資料館で初めて開催させていただきました。これは、上杉博物館のご協力を得まして、市内所有者からお借りしたもの、また、長井市に寄贈していただいた刀剣なども展示させていただいたものであります。大変昨年は好評でありまして、９月16日から10月23日まで開催したわけですけども、多分、古代の丘資料館始まって以来、いっぱいお客様が来たんじゃないかなというふうに思っております。過去にもこうした取組をギャラリー十字路さんでも行った経過があるというふうなことですが、なかなかちょっと様々なセキュリティーの確保など、問題があって、継続は難

しかったと伺っております。古美術ではございませんけども、文教の杜でも毎年、市内の所有者から借用いたしました美術品の企画展を行っているようです。最近では、高橋都哉展、「長井の心　詩と風景」、池田秧青展など、開催しているというふうなことでありますので、どのような展示がよいのか、検討いたしまして、効果のある展示会の開催を行ってまいりたいと思います。

しかしながら、ちょっと話替わりますが、将来的に、これから長井市が進めてまいりたいまちづくりの一つで、第４次都市再生整備計画では、面的整備も含めて、ウオーカブルシティーを目指して、文教の杜を含む重要文化的景観のエリア内である宮・小桜街区も計画したいというふうにただいまのところは考えております。歩くことを楽しむことができるエリアとして、例えば空き店舗などを活用したまち歩き美術館なども実現できるよう、関係者とこれから協議をしていきたいというふうに思っているところでございますので、そういった方面もこれから検討してまいりたいと考えているところでございます。

○平　進介委員長　７番、内谷邦彦委員。

○７番　内谷邦彦委員　観光振興については、新型コロナウイルス感染症対策の規制がなくなりつつあるわけですから、やっぱり本市に観光客を呼び込む、要するに本市のにぎわいを取り戻すというふうな形の中では、観光事業というものを十分に考えて、開催をしていただきたいと思いますけども、その辺も併せて、産業参事に伺いたいと思います。

○平　進介委員長　赤間茂樹産業参事。

○赤間茂樹産業参事　これから、やはりいわゆる観光地ということよりも、いかに関係人口につなげていくかというふうな取組としての観光目線での事業展開が必要だというふうに考えております。当然、あやめ公園、つつじ公園も大切なのですが、現状ある長井市のまちの中の文化財とか、あるいは、自然環境、名勝など、こういったところには、団体客を受け入れるにはちょっとこちらと、受皿としても大変なところがありますので、小グループ、しかも、やまがたアルカディア観光局で目指している30代、40代の働き盛りの例えば女性とか、そういった方々を呼び込むような仕掛けをしていかなければならないと思っております。そういうことを繰り返していくことで、長井市民との交流人口を増やしていって、やがてはもっと関係を深く持っていただく、移住とかにつながるような、そういった関係性の方々を増やしていきたいというふうに考えております。

○平　進介委員長　７番、内谷邦彦委員。

○７番　内谷邦彦委員　ぜひ長井市に興味を持ってもらえる方であったり、できればやっぱり移住してもらえれば一番いいわけですから、長井市を好きになってもらう方を、取っかかりは長井市に来てもらうことだろうと思いますので、その観光振興についても十分に検討して、広げていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

以上で私の質問を終わります。

○平　進介委員長　以上で通告による総括質疑は終わりました。

これより各会計予算の細部審査に入ります。

なお、質疑に当たっては、答弁者並びにページ数をお示しの上、お願いいたします。

議案第１号　令和５年度長井市一般会計予算についての質疑

○平　進介委員長　それでは、議案第１号　令和５年度長井市一般会計予算の１件について、歳入から順次質疑を行います。